

2

牛久沼
名所化への
提案

3つのサイクル

賑わい
をつくる
15年

道・広場
をつくる
50年

自然環境をつくる
100年

「自然環境」「道・広場」「賑わい」 それぞれのサイクルに合わせた計画を

「自然環境の名所化」「道・広場の名所化」「賑わいエリアの名所化」。

本構想は名所化を大きく3つのカテゴリーに分類します。

そして、それぞれのカテゴリーには時代の変化や人々の趣向の移り変わりに合わせて変化すべきタイミングがあります。

サイクルが一番長く、手をかければかけるほど価値を蓄積させるのは「自然環境」です。牛久沼の水辺や草木は明治神宮の森のように100年先の理想を描き時間をかけ育てていくことで他の地域には真似できない価値へと成長することでしょう。

そういった自然環境に寄り添うように計画する道や広場などの「公共スペース」は、地域の人々が日常的に使える飽きのこない場作りを50年のスパンで整備していく必要があります。

そして、時代や趣向の変化に影響を受けやすく施設のサイクルが一番早いのは商業を軸とした「賑わい」です。ネット社会の到来で商業にまつわる条件は日に日に変化し、15年先の賑わいでも予測が困難な状況が今の時代です。そういった大きなうねりに対応できるように施設づくりも15年を目安にリニューアルや建替えに対応できる計画が必要です。

この3つのサイクルをうまくコントロールすることで流行り廃りの影響を受けない100年先につながる「感幸地」が誕生します。



2-1. 自然環境をつくる

水 と 緑

牛久沼の「水」、その水辺に育つ木々や草花などの「緑」これらは牛久沼のかけがえのない資産です。

施設や商品など人が作り出すものは流行や風化などの影響でいずれ古くなってしまいうものですが、自然環境は人々が丁寧に手をかけさえすれば時間の経過にあわせて育つ普遍的資産です。

牛久沼は決して陳腐化しないうえに、改善し続けることでさらに輝き出す可能性を秘めています。

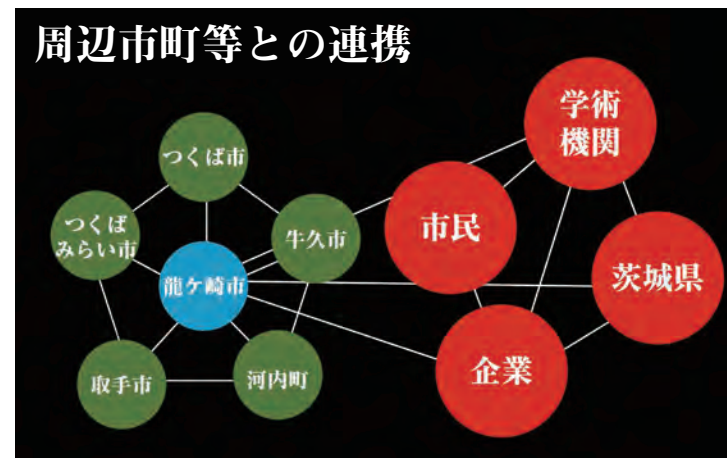
「水」と「緑」。

この2つの要素を徹底的に磨き上げることで、龍ヶ崎だけでなく周辺の地域にとっての「感幸地」となることでしょう。

泳げる 牛久沼を めざして

周辺市町との連携が不可欠

牛久沼の水質の改善を考えると、龍ヶ崎市が単独で取り組みを行っても効果は限定的だと考えられます。西谷田川や谷田川、稲荷川など牛久沼への流入河川からの水質改善も同時に取り組むことで水質は劇的に改善されるはずです。牛久沼を所有する龍ヶ崎市が中心となり、周辺の市町を巻き込み、さらに市民や地元企業、学術機関や茨城県のを借り、互いに連携しながら「泳げる牛久沼」を目指すことが肝心だと考えます。



多角的な水質改善対策で 「泳げる牛久沼」を目指す

東京の日本橋川は長年にわたる活動で、有害物質の浄化や悪臭の改善など、人々が舟遊びを楽しめる程度まで水質が改善されました。

もし、牛久沼が安心して泳げる水辺として生まれ変わるのならば、それだけで周辺地域のかけがえのない資産となることは間違いありません。長い視点で考えると、水質の改善は牛久沼を名所とするうえでは避けては通れない課題です。

周辺の市町と協力し、広域的な視点でいくつかの対策を実施することで「泳げる牛久沼」が実現すると考えます。

CASE_1



流入する水を改善する

牛久沼に流入してくる河川水を処理施設にて浄化し（直接浄化）、沼内の水質を改善する

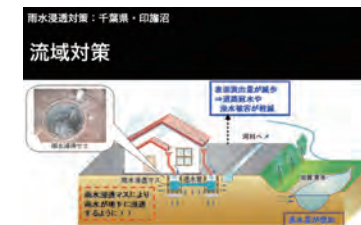
CASE_2



自然の浄化作用を利用する

水の浄化作用効果が高い植物を植える方法（植生利用）や、人が接するエリアを区切り部分的に水質改善を施す方法（流動抑制）、二枚貝の水質浄化作用を利用する方法などを使い分けながら水質を改善する

CASE_3



周辺からの汚濁負荷削減に努める

広域的な視点で水質改善に取り組む。面源（市街地系、農地系、自然系等）から流れてくる水を浄化する。雨水ます・管渠清掃、路面清掃、雨水浸透施設の設置、雨水貯留施設の設置等の実施により効果を発揮する

牛久沼は 多様で美しく 緑あふれる 環境へ



ワイルドガーデンのすすめ
ビエトオールドフガーデン (オランダ)

まるで自然の草原のような野趣あふれる景色を眺めるものを感じさせるのがワイルドガーデンの特徴です。しかし、その美しさはきちんと計算された色づかいや構成によってもたらされています。ワイルドでありながら繊細でどこかモダンさを感じさせるガーデンデザイン、植物が枯れる色合いまで計算し尽くし、四季を通じて植物の変化を楽しむデザインは新しいタイプのランドスケープデザインといえます。

参考資料：
(左図) ワイルドガーデンの計画図
(右図) 実施されたワイルドガーデン

参考イメージ



Highline New York (ハイレインニューヨーク)

ニューヨーク チェルシー地区にある廃線跡地を活用した「Highline」は植栽設計を特に重視して作られた観光地です。廃線となって放置され 25年の間に生い茂った自生植物はなるべくそのまま残し、さらにそれに加えるかたちで美しい草花の景観を設計する手法がとられました。一年を通じて数百種の美しい花々を咲かせ人々を飽きさせない植栽は、専門のガーデナーと多くのボランティアの献身的な努力によって維持されています。また、草木の紹介にも力を注ぎ、フレンズ・オブ・ザ・ハイレインの公式サイトでは、毎週 Plant of the Week (今週の植物) というブログを発表し、写真と共に、ハイレイン内の植物を紹介するほか、蜂や鳥などの生物の働きも丁寧にブログで解説しています。



夏のハイレイン



秋のハイレイン

牛久沼 100年先につながる緑のイメージ



24時間
365日
龍ヶ崎の
誇りとなる
100年先
につながる
緑地計画

